

令和6年度 学校評価書(自己評価・学校関係者評価)

山形県立鶴岡工業高等学校(定時制)

教育目標	1 学業と就労の両立を図り、心豊かでたくましく生きる力を育てる。 2 一般教養と工業の基礎的・基本的学習を重視し、生涯にわたり挑戦する心を持って学び続ける態度と能力を育てる。 3 基本的生活習慣と態度を確立し、ねばり強い実践力と健全な心身を育てる。	重点目標	1 生き生きと学ぶ学習の充実 2 豊かな心と健やかな体を育成する生徒指導の充実 3 社会で自立できるキャリア教育の推進 4 未来を共創する工業人の育成と資格取得をめざした指導の充実 5 活動を支える環境整備 6 家庭や地域に対する積極的な情報発信による、社会に開かれた学校づくりの推進
------	--	------	---

達成度	A 達成	B 概ね達成	C やや不十分	D 不十分
-----	------	--------	---------	-------

評価項目		自 己 評 価 (年 間)				学校関係者評価	総 括
		具体的方策と指標・基準等	目標達成状況及び取り組み状況等	達成度	今後に向けた改善策等	意見・要望・評価等	
1	生き生きと学ぶ学習の充実	・公開授業・研究授業を年2回実施するとともに合評会を実施し、授業改善に取り組む。 ・ICT機器を活用した、「わかる授業」を実践するとともに研修会を年2回実施する。 ・各種検定・資格取得を奨励し、1人1つ以上の資格取得を目指す。 ・読書活動の推進と図書館利用の充実を図り、1人5冊以上の貸出を目指す。	・公開授業・研究授業、合評会を予定通り2回実施し、各教員のICT活用方法や工夫などを知ることができた。 ・ICT活用に関する校内研修会は、1回の実施に留まった。 ・1人1つ以上の資格取得を実現することができた。 ・長期休業前に図書館の利用を働きかけたが、目標達成はできなかった。	A	・今後も継続的な授業改善に取り組む。 ・ICT活用について、さらに習熟する必要がある。	・ICT機器の活用など「わかる授業」の実践など工夫され、学力向上に向けての取り組みがなされている。 ・鶴工研究発表会での発表はまとまっていて素晴らしいと思います。 ・先生方が生徒に寄り添い学習を進めている。 学校関係者評価 A	・令和6年度末を持って本校定時制は閉課程となるため、今年度が定時制として最後の年であった。 ・今年度は在籍生徒が2名だけの状況であるため、充実した個別指導が可能であり、生徒の能力に応じた丁寧な指導を実施し、学力向上を実現することができた。
2	豊かな心と健やかな体を育成する生徒指導の充実	・対話や発表する機会を充実させ、生徒が自他理解を深め、良好な人間関係を構築できるようにする。 ・いじめ防止と面談等による早期発見、早期対応の徹底に努め、いじめのない学校にする。 ・生徒会活動及び生徒会行事を通じて自他理解を深めるとともに、集団における自己の役割を果たす。 ・交通安全講習会を開催し、交通ルールの遵守と無事故無違反を目指す。 ・保健講話で生命の尊さを学び、保健指導を通して、生活リズムの確立を目指す。	・生徒会活動、課題発表会等を通して生徒同士がコミュニケーションを図り、互いを尊重することができた。 ・面談等の充実により、今年度のいじめ認知はなかった。 ・複数の役職の兼務と適切な役割分担により、協力しながら、充実した生徒会活動を実施することができた。 ・交通ルールを遵守させ、無事故無違反で過ごすことができた。 ・保健指導を充実させたことで、生活リズムに安定が見られた。	A	・社会性や責任感、ルールやマナーを身に付けさせることに取り組む。 ・いじめ予防に努め、迅速な情報共有と早期対応を行う。 ・さらに役割分担しながら協力できるように指導を継続する。 ・交通ルール遵守のため指導を継続する。 ・個別の相談や情報提供を継続する。	・自己の生活リズムが確立できるよう、SHRでの健康チェックや計画的な面談で生徒の日常生活を確認しながら指導されている。 ・出席率も高く、生活リズムも整いつつあり、しっかりとした指導がなされている。 学校関係者評価 A	・生活指導、交通安全指導、保健指導等を通して、基本的な生活習慣を定着させるとともに、個に応じた計画的な面談活動や外部機関との連携等を行い、集団の中で自己の役割を理解して責任を果たそうとする意識を醸成し、心身ともに健康な生徒の育成を図ることができた。 ・面談指導を充実させ、生徒が自己理解を深め、自分自身の生き方を考えることにより、進路目標の早期設定とその実現を図ることができた。また、適切な情報提供を行い、家庭との連携、情報共有ができた。
3	社会で自立できるキャリア教育の推進	・定期的な進路希望調査、進路講話、進路研修の実施により自己の適性を考え、進路目標の実現に向けて努力させる。 ・随時、求人情報の提供、就労相談を実施し、生徒が必要とする情報を適切に提供する。 ・進路希望の実現に向け、関係機関との連携を深め、外部ガイダンス等の活用を図り、進路適性を理解させる。	・進路希望調査、進路講話、進路研修等の行事を予定通り実施した。進路講話をきっかけに、進路意識や働く心構えの醸成ができた。 ・ハローワークや各企業からの求人情報を適切な時期に提供することができた。 ・就職ガイダンスの実施、外部ガイダンスの活用などにより、生徒の就労に対する意識が高まり、進路希望を実現することができた。	A	・進路希望実現のために有効な指導内容の検証を行う。 ・関係機関との連携及び情報収集に努め、効果的な外部ガイダンス等の活用について検討する。	・生徒自らが基本的習慣が確立できるよう、挨拶や社会ルール、自他理解を深め、良好な人間関係が構築できるよう生徒面談や対話の充実がなされている。 ・希望する進路に進めている。 学校関係者評価 A	・ものづくりの体験を通して工業技術の魅力を伝え、主体的に取り組む姿勢を育成することができた。また、学校全体の発表の場である鶴工研究発表会に参加し、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上に取り組んだ。
4	未来を共創する工業人の育成と資格取得をめざした指導の充実	・工業の基礎的な知識と技術・技能を習得させるため、その土台となる基礎的な学力の育成を図る。 ・Chromebookを活用した、工業技術に関する情報収集方法の指導を行う。 ・資格や検定の取得に向けた情報提供と計画的な指導に取り組む。 ・課題研究発表会に向けて、プレゼンテーションスキルの向上を図る。	・クロームブックを使用した学習成果の提出により、学習習慣が定着するとともに、学習内容の確認が容易になった。 ・課題研究などで情報リテラシーを高めることができた。 ・パソコン利用技術検定3級の資格を取得することができた。 ・前期と後期に中間発表会を実施し、課題研究発表会の内容を充実させるとともに、プレゼンテーションスキルの向上を図ることができた。	A	・基礎学力向上を目指した指導と、主体的に学習内容をまとめるレポート作成の指導を継続する。 ・Chromebookの新たな活用方法について、継続した指導が必要である。 ・各種検定・資格取得について、計画的に学習に取り組む場の設定が必要である。 ・各種授業の中で日常的に発表する機会を設け、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力の向上を図る。	・資格、検定情報のガイダンス、プリント配布など、資格取得の目標に対し計画的に取り組む指導がなされている。 ・目標とする資格取得ができている。 学校関係者評価 A	・安全・防災教育の充実と施設設備の安全点検等の徹底により、生徒の校内外での安心・安全な活動を保障するとともに、学習に集中できる環境整備に取り組んだ。
5	活動を支える環境整備	・安全教育と防災教育・防災対策により、生徒の校内外での安全な活動を確保する。 ・施設・設備の安全維持と清潔で快適な学校生活環境を整備する。 ・校舎と設備等の維持補修を効果的に行うとともに、計画的かつ優先順位を付けた整備に努める。	・春季と秋季の防災訓練を予定通り実施した。 ・毎月の安全点検により、不具合や整備箇所の早期発見と対応に努め、安全な教育環境を確保した。 ・老朽化施設の修繕予算の確保に努め、限られた予算内で優先順位をつけて対応した。	A	・防災訓練は、火災・地震・水害・Jアラート等、様々な事案を想定して計画する必要がある。 ・老朽化に伴う修繕費や需用費増について教育局への要望を継続する。	・学校施設、設備の老朽化に伴う修繕など優先順位をつけながら対応されている。 ・校内環境は老朽化が進んでいる。 学校関係者評価 B	・定時制教育の情報をホームページから積極的に発信するとともに、例年実施しているボランティア活動等を継続し、地域・外部機関との連携をより深めることができた。
6	家庭や地域に対する積極的な情報発信による、社会に開かれた学校づくりの推進	・月1回以上のホームページの更新及び「鶴工定通信」の年3回発行等を通して、家庭や地域への定期的な情報発信に取り組む。 ・家庭との連携を密にするため、PTA総会への保護者の参加を促し、全員参加を目指す。 ・ボランティア活動の充実を図り、生徒全員で取り組み地域とつながることを目指す。	・定期的にホームページの更新を行い、「鶴工定通信」も予定通り発行することができた。 ・PTA総会への保護者の参加を促したが、全員参加は達成できなかった。 ・地域貢献ボランティア活動に生徒全員で取り組み、公共施設へのプランター寄贈を行った。	A	・複数の組織的にホームページ更新に取り組み、最新情報の提供に努める。 ・もっと多くの人に定時制で学べることを知ってもらう情報発信があると良かった。 ・長きにわたるご苦労に頭が下がります。	・毎年実施されているボランティア活動（プランター製作）などにより、地域交流を深め、「ものづくり」の実践と地域貢献活動がなされている。 学校関係者評価 B	
自己評価及び学校関係者評価の改善点等		・生徒数減少に伴い、具体的方策や達成目標を適切に設定するとともに、定期的に自己評価を行う機会を設けることで適正な自己評価を実践する。 ・適正な学校関係者評価を行っていただくために、普段の授業や学校行事等、実際の教育活動の現場を拝見いただく機会の充実を図る。					